



Kaspersky®  
Security Center

# 統合された単一のコンソールから、物理、仮想、モバイルのすべてのデバイスを管理・保護

Kaspersky Security Centerは、セキュリティ管理とITシステム管理の複雑さを解消します。スケーラブルなこのコンソールは、企業の変化するセキュリティニーズに対応し、包括的なシステムとセキュリティ管理を容易にします。これらは、すべて統合された単一の管理コンソールでご利用できます。

## 利点

- ・ 物理および仮想のエンドポイントとサーバー、モバイル端末、組み込みシステムを管理
- ・ 攻撃対象となる露出を低減
- ・ バッチ適用を効率化
- ・ ルーチンタスクをスピードアップ
- ・ 容易なインベントリとアプリケーションの展開を実現
- ・ マネージドサービスプロバイダーの運用をアシスト
- ・ セキュリティ全体の状況を把握
- ・ 容易なセキュリティ展開の実現
- ・ クラウド環境でもすぐれた保護機能を提供

## システム要件

最新のシステム要件は、カスペルスキーのナレッジベースをご参照ください。[https://support.kaspersky.co.jp/#s\\_tab4](https://support.kaspersky.co.jp/#s_tab4)

## サブスクリプション版の要件

サブスクリプション版のご利用については、下記をご参照いただき、弊社製品販売代理店までお問い合わせください。<https://support.kaspersky.co.jp/subscription.aspx>

## 管理の一元化

当社のセキュリティ製品の多くは単一の管理コンソール、Kaspersky Security Centerで管理できるため、セキュリティ運用担当者はすべてのエンドポイントにセキュリティポリシーをより早く簡単に適用できます。ロールベースのアクセスと統合されたダッシュボードにより、管理者を複数設定し、それぞれの職責に関連するツールとデータにのみアクセスできるように設定することもできます。

## 新たなWebコンソール

新たに提供されるWebコンソールでは、お客様からのフィードバックやユーザビリティテストの結果をふまえ、シンプルな使い心地を念頭に開発しました。ユーザーセントリックの管理アプローチを採用し、新たなデザインを導入しています。

## すぐれた拡張性

初期設定を変更せずにセキュリティの拡張が可能です。Kaspersky Security Centerのサーバー1つあたり最大100,000の物理、仮想およびクラウドベースのエンドポイントを管理でき、アップデートエージェント1つで最大10,000のホストを処理できます。マスター/スレーブ階層は、複数のサーバーに対しても作成が可能で、マスターサーバーに適用されているロールと権限をすべてのスレーブサーバーに継承させることもできます。マスターサーバーは各スレーブによって管理されるすべてのホストを完全に認識できます。

# 主な機能



## Web管理コンソール

ユーザーセントリックのアプローチと新たなデザインを備えた、当社の新しいフル機能のWebコンソールを介して、主要なセキュリティ機能をリモートで管理できます。Kaspersky Endpoint Security for Business Selectのライセンスでは、WindowsおよびLinuxワークステーションのセキュリティ機能を、Webコンソールから直接管理できるようになりました。Kaspersky Endpoint Security for Business SelectおよびAdvancedのライセンスで、コンポーネントの監視とレポート作成も、新しいコンソールからアクセスできます。<sup>1</sup>

WebコンソールはWebブラウザにて利用可能です。:

- リモートコンソール用のソフトウェアのインストールは不要
- 通信用にネットワークポートの設定は不要
- プラットフォームを選ばずに利用可能
- タブレットなどモバイル端末からも利用可能



## 360° マネージメント

Kaspersky Security Centerは、単一のコンソールで簡単な管理を実現し、効率を高め、TCOを削減します。:

**セキュリティの管理:** 物理、仮想、クラウド、Windows、Linux、およびMac OS、ワークステーション、サーバー、モバイルデバイス、および組み込みシステムの管理を実現します。

**脆弱性とパッチ管理:** アプリケーションやOSの脆弱性を検出し、対応の優先順を示します。またパッチとアップデートを自動的に配布できます。

**データ保護の管理:** Kaspersky Encryption、Microsoft BitLocker、およびFileVaultでの暗号化を管理でき、紛失または盗難にあったデバイスのデータを保護します。

**IT資産管理:** アプリケーションのインストール、アップデートの実行や、トラブルシューティング、ハードウェアとソフトウェアのインベントリ、システムプロビジョニングをリモートで実行できます。



## 容易にインストール、すぐに利用できる設定

Kaspersky Labにより事前設定されたポリシーを用いてすぐに使用することも、独自にポリシーを作成することもでき、追加の構成をするためのITリソースが限られている小規模な組織にとって有効です。:

<sup>1</sup> Advancedライセンスで利用可能な機能は、既存のソフトウェアコンソールを通じて管理します。



## 統一されたポリシーとタスク

実行しているバージョンに関係なく、同じポリシーをKaspersky Labのセキュリティソリューションに展開します。Kaspersky Endpoint Security for Businessのバージョン11をインストールすれば、その後アップグレードしても、各バージョンのタスクやポリシーを維持する必要はありません。



## ロールベースモデル

ロールベースのアクセス制御を介してさまざまなエンドポイントグループまたは管理タスクを異なる管理者に割り当て、各管理者が自分の職責に関連するツールとデータにのみアクセスできるように管理コンソールをカスタマイズできます。



## サードパーティのシステムとの柔軟な統合

OpenAPIを使用して、ご利用中のITシステムをKaspersky Security Centerと統合します。



## 強化されたレポート機能

ビルトインおよびカスタマイズ可能なレポートで広範囲の状況を確認したり、ダイナミックフィルタリングを適用し、任意のフィールドのみソートしたりできます。ログは自動的にサードパーティのSIEMシステムにエクスポートすることもできます。



## ビルトインの監査機能のベストプラクティス

バージョンを比較して設定をロールバックできます。Kaspersky Security Centerは設定、ポリシー、タスク、管理対象アプリケーションへのすべての変更を必要に応じて簡単にロールバックできるように記録および保存し、監査機能により管理者はポリシーを比較して変更を示すレポートを取得できます。



## 最適化されたアップデートとトラフィック

新しいシグネチャアップデートメカニズムにより、Kaspersky Security Centerサーバーとエージェントの間のアップデートトラフィックの量が最大1/20に削減されます。

アップデートエージェントとしてエンドポイントを使用することで、さらなる最適化を実現できます。すべてのアップデートエージェントは、リモート環境でもKaspersky Security Networkプロキシとして機能するようになりました。

### ご購入方法

Kaspersky Security Center は以下のライセンスに含まれます。

- [Kaspersky Endpoint Security for Business Advanced](#)
- [Kaspersky Endpoint Security for Business Select](#)
- [Kaspersky Vulnerability & Patch Management](#)
- [Kaspersky Hybrid Cloud Security](#)
- [Kaspersky Security for Storage](#)
- [Kaspersky Security for Mail Server](#)

#truecybersecurity  
#HuMachine

[www.kaspersky.co.jp](http://www.kaspersky.co.jp)

© 2019 Kaspersky Lab. All rights reserved.  
Kaspersky およびカスペルスキーは Kaspersky Lab の登録商標です。その他記載された製品名などは、各社の商標もしくは登録商標です。なお、本文では、®は記載していません。



エキスパートによる  
分析



HuMachine™



機械学習



ビッグデータ /  
脅威インテリジェンス